

トップレベルの大学生女子剣道選手の試合特性について
—本学女子剣道チームの試合特性—

前阪茂樹, 近藤直樹, 有馬佳代, 國分國友

THE MATCH CHARACTER OF A FEMALE STUDENT KENDO PLAYER
OF THE TOP LEVEL

—The Character of the Match of the NIFS Female Students Kendo Team—

Shigeki MAESAKA, Naoki KONDO, Kayo ARIMA, Kunitomo KOKUBU

Abstract

We put up elements of the “improvement of athletic and performance” and “exercise and health” in the ideology of NIFS-K. Do strengthening in the official match with the all the learning like position, and then it is our mission to introduce the result to the public.

A NIFS kendo team strengthened skills and minds through 2001 years with the aim of the victory in the national athletic meet. Our team attained continuous victory for five years in the All Japan Women’s College student Kendo Championship held in November 2001 as a result.

An examination is tried about the character of the group match of a female kendo player, and the purpose of this study is to make use of it for methodology of kendo coaching.

KEY WORDS: *improvement of athletic and performance, group match, NIFS female kendo player, kendo coaching.*

はじめに

我が国で発祥, 発展してきた武道は, 剣道をはじめ柔道, 相撲, 空手, なぎなた, 弓道などすべて対人的技能, つまり個人の力で戦い競うものばかりである。剣道の試合もそもそもは, 全日本剣道演武大会 (京都大会) のような一対一の試合 (立合) が次々と続く演武会形式が基本であり, 現在のような5人制, 7人制といった団体戦がおこなわれるようになったのは, 明治末期だといわれている。特に大正から昭和初期にかけて学生剣道が発展する中で団体戦が序々に主流になっていき, 外国の発想を取り入れて, トーナメントによ

る優勝試合が盛んにおこなわれるようになり, 現在では団体戦における優勝試合 (大会) 形式が最も重きを置かれるものとなった。

鹿屋体育大学 (以下「本学」) は, 大学の理念に「競技力の向上」と「運動と健康」の二大要素を掲げている。体育学部における運動部活動の在り方を考えるとき, 各運動種目の競技力を向上する又はさせることのできる選手及び指導者を養成することは不可欠であると考えている。つまり, 競技力向上における選手の養成とは各運動部の対外試合による成績の向上がその評価の一端を担っているといえよう。

これを受けて本学剣道部は, 平成13年度の通常

の授業・部活動の錬磨の成果を対外試合において最高の成績を残すことを最大の目標に置いて強化した結果、11月におこなわれた第20回全日本女子学生剣道優勝大会で念願であった5連覇を達成することが出来た。

本稿では、剣道部の年間を通じた強化のあり方の一部を振り返り、本学女子剣道選手の公式戦団体試合における試合特性について考察を試み、今後の剣道指導に役立てることを目的とする。

これまでの経過（平成12年度の成果）

本学女子剣道部は、全日本女子学生剣道優勝大会において現在4連覇している。

第19回全日本女子学生剣道優勝大会

11月12日 於：愛知県武道館

試合結果 優勝（4連覇）

1 回 戦：シード

2 回 戦：3（6）-0（1），大阪教育大

3 回 戦：2（4）-0（1），早稲田大

準々決勝：4（7）-0（0），佐賀大

準 決 勝：4（8）-0（2），中京大

決 勝：4（7）-0（2），筑波大

（ ）内は取得本数

大会寸評

「20世紀最後の本大会も、やはり鹿体大だった。連覇を“4”に伸ばすとともに、国士館大に並ぶ最多6度目の栄冠を手にした。決勝戦は筑波大に大将戦を待たずに勝利。全5試合で大将戦にもつれ込んだのは1試合、個々の対戦でも黒星はゼロと圧倒的な強さを見せた。」¹⁾

13年度の目標設定

年間を通しての目標（部全体、学生共通）は部訓である「朝鍛夕錬」，「主一無適」の精神をもって稽古をおこない、剣道の理念に基づく修行を通しての人のづくりを目指すことを本学創設当初より掲げている。

競技力向上における具体的目標

男女とも出場する全試合での優勝を目指す。大

会のシーズンは4月下旬頃から11月中旬までである。団体戦においては、5月下旬の西日本大会と8月下旬の九州大会（全日本予選）10・11月の全日本大会（男子・女子）での優勝を具体的目標としてあげた。

方法

平成13年度中に開催された公式戦のうち、女子団体戦による3大会について、全試合の結果をもとに、トップレベルの大学生女子剣道選手の試合特性について考察をすすめる。

対象とした試合

5月26・27日 第16回 西日本女子学生剣道大会

8月26日 第24回 全九州女子学生剣道優勝大会

11月11日 第20回 全日本女子学生剣道優勝大会

表1. 本研究で対象とした本学女子剣道選手

選手	年齢	学年
Y.O	21	4
K.F	21	4
M.S	20	3
Y.T	20	3
K.O	20	3

対象とした選手

表1は、本研究で対象とした選手5名である。この5名は、団体戦における昨年までの主力メンバーであり、他の女子選手と比較しても実力、実戦経験などが秀でている。ただ、大会に向けての正選手決定は、必ず部内で予選をおこない、その結果や常日頃の修錬の成果などを総合的に指導者が判断し、決定している。なお、結果的にはこの5人が選手として出場した。

成果（試合結果より）

西日本大会 優勝

1回戦 シード

- 2 回戦 福山大, 5 (8) - 0 (0)
- 3 回戦 大分大, 5 (10) - 0 (1)
- 4 回戦 島根大, 5 (7) - 0 (0)
- 5 回戦 立命館大, 3 (4) - 0 (0)
- 準決勝 大阪体育大, 4 (7) - 0 (2)
- 決 勝 福岡教育大, 2 (5) - 0 (1)

～コメント～

西日本大会は、13年度最初の団体戦であり、しかも参加数が全日本を上回る学生剣道界最大規模の大会である。過去数年の成績は、男子が5回（今回も男子優勝、4連覇）、女子が10回（過去7連覇含む）優勝しており、常に他校からマークされる立場であるので気を引き締めてのぞむように心がけさせた。

初戦から準決勝戦まで不動のオーダー（先鋒 M.S, 次鋒 Y.T, 中堅 K.F, 副将 K.O, 大将 Y.O）で望んだが、決勝戦に於いては相手の大将と Y.O 選手は過去の対戦結果の相性が悪いことから、当日絶好調の Y.T 選手を大将に据え、昨年全日本大会のオーダーでのぞんだ。

九州大会 優勝

- 1 回戦 シード
- 2 回戦 福岡大, 2 (3) - 1 (1)
- 3 回戦 熊本大, 5 (7) - 0 (0)
- 準決勝 西南学院大, 5 (10) - 0 (0)
- 決勝 熊本学園大, 3 (6) - 1 (2)

～コメント～

前年度全日本優勝校であっても予選を勝ち上がらないと本戦出場はできないため、一戦一戦集中して戦わせるように配慮した。特に初戦の戦い方が最も難しいので、ウォーミングアップを入念に集中しておこなうように指示した。

また、当日の試合は、国民体育大会九州ブロック予選会と重なっていたため、鹿児島県代表である K.F 選手は不出場となり、代わりに M.T 選手（本研究対象外選手）を起用した。M.T 選手は中堅で出場し、全4試合中2勝2引き分けであった。

決勝戦は、西日本で優勝を争った福岡教育大学があがってくると予想していたが、熊本学園大が相手であった。選手たちの大方の予想に反してい

たため、特に気を抜かずに決勝戦にのぞめるように気分を新たに作り直すように心がけた。

全日本大会 優勝（5連覇）

- 1 回戦 シード
- 2 回戦 順天堂大, 4 (8) - 0 (1)
- 3 回戦 常葉学園大, 5 (10) - 0 (2)
- 4 回戦 筑波大, 2 (4) - 0 (1)
- 準決勝 早稲田大, 5 (7) - 0 (0)
- 決 勝 大阪体育大, 2 (5) - 2 (5), 代表勝ち

～コメント～

厳しい選手選考を経て正選手を最終決定し、本年度最後、そして最大の目標の試合を前に、今まで積み重ねてきたことをすべて出して、そして自信を持って試合に臨むことを事前に再確認させた。試合においては一試合一試合気持ちを白紙に戻して、声を出し、他大学を上回る気迫で試合することを最終助言とした。

大学の試合は登録選手7名（女子の場合は5人制団体戦）中、5名を試合ごとにオーダー提出して、選手の変更は1試合ずつ可能であるが、当日の選手たちの調子やチームとしての試合の流れ等を考え、本研究対象選手を下記の不動のオーダーで使った。

先鋒, M.S 次鋒, Y.T 中堅, K.F 副将, K.O 大将, Y.O

参考大会（個人戦）

個人戦の結果も団体戦における正選手決定の重要な参考資料になることから、5月と7月におこなわれた全九州・全日本の学生選手権の試合結果を次に記したい。

第34回全九州女子学生剣道選手権大会

5月13日に福岡で、全日本女子学生剣道選手権大会の予選を兼ねた個人戦がおこなわれ、本学選手がベスト8（予選通過）を独占し、九州代表枠の9名中、本研究対象選手は、全員全日本への切符を手に入れた。

表2. 全九州女子学生剣道選手権大会における対象選手の成績

NIFS-K	成 績
M.S	ベスト8
Y.T	優 勝
K.F	3 位
K.O	推薦出場
Y.O	2 位

第35回全日本女子学生剣道選手権大会

7月1日に大阪で開催された試合に、九州代表の選手(全員本学)9名が出場し、第2位にK.O選手が、第3位に本学のA.Y選手(本研究対象外選手)が入賞した。

表3. 全日本女子学生剣道選手権大会における対象選手の成績

NIFS-K	成 績
M.S	2回戦
Y.T	ベスト8
K.F	3回戦
K.O	2 位
Y.O	2回戦

試合特性についての指針

先、初太刀の重要性

高野佐三郎は、その著「剣道」において「剣道に於いては機先を制する事最も必要なり。勝敗の決するは実に先を得ると否とに在り。……先々の先と謂ふは。彼我相対し勝敗を争う時敵の起こりを早く機敏の間に認めて直ちに撃ち込み機先を制するをいふ。敵の先に更に先んずるの先にして斯道に於いて最も重きを置くものなり。」³⁾と、相手より早く攻めること、つまり先々の先の重要性を説いている。また、剣道の本質は競技としての有効打突の奪い合いを超越したところの刀での命

の奪い合いを出発点としている。つまり真剣勝負である。真剣勝負ならば1本勝負であることを選手には十分に理解させ、初太刀=1本目を必ず奪うことの重要性を説き、指導にあたった。

試合特性

表4は今年度における女子の公式団体戦の全試合の記録を示している。この結果から表5は、有効打突1本目先取率と先取した平均時間、試合の勝率等(この場合の勝率は全試合数に対する勝ち試合数を求めたものとする)についてまとめたものである。各個人のこれまでの実績、パフォーマンスレベル、その他さまざまな要因等を考慮して、試合特性としての検証を、

1. 1本目先取率と勝率
2. 1本目先取率と先取した時間
3. 有効打突となった技の分類

に分けておこない、考察を加えていきたい。

検証1. 1本目先取率と勝率

3つの大会、団体戦全15試合、全個人68試合中、52勝4敗12引き分け、勝率77.6%であった。年間通しての公式試合(団体)で、落としたポイントがたった4試合というところに、各個人のパフォーマンスの高さがうかがえる。各個人においては、最も高い成績であったのは、Y.T選手の14勝0敗1引き分け、勝率93.3%であり、成績が低い方では、K.O選手の8勝2敗4引き分け、勝率57.1%であった。このことは、当日の本人の調子もあるが、K.O選手については個人戦における最も高い成績を出していることから、各個人の実力の違いということではないと考えられる。団体戦にお

表5. 各選手の1本目の先取状況と勝率について

NIFS-K	一本目先取時間(秒)	一本目先取率(%)	勝率(%)	成 績
チ ャ ム	87.7	71.6	76.1	52勝4敗11引き分け
先鋒M.S	105.9	64.3	71.4	10勝2敗2引き分け
次鋒Y.T	65.5	86.7	93.3	14勝0敗1引き分け
中堅K.F	106.9	80.0	70.0	7勝0敗3引き分け
副将K.O	104.3	50.0	57.1	8勝2敗4引き分け
大将Y.O	74.7	78.6	85.7	12勝0敗2引き分け

表4. 平成13年度におこなわれた女子団体戦の各選手の試合データ

大会名	選手名	1 本 目				2 本 目				3 本 目				勝敗等
		先取(秒)	技名	被先取(秒)	技名	先取(秒)	技名	先取(秒)	技名	先取(秒)	技名	先取(秒)	技名	
西日本女子学生剣道大会	K.O					160	小手から面						不戦勝	
	K.O	83	引き胴										二本勝ち	
	K.O	126	引き胴										引き分け	
	K.O												一本勝ち	
	Y.O	3	追い込んで小手			57	飛び込み面						引き分け	
	Y.O	21	諸手突き			202	追い込み面						二本勝ち	
	Y.O			201	小手	207	飛び込み面						二本勝ち	
	Y.O	73	引き胴			75	飛び込み面						引き分け	
	M.S	47	飛び込み面										二本勝ち	
	M.S			113	飛び込み面	170	追い込み面			172	小手返し面			一本勝ち
	M.S	194	面返し胴			238	小手返し面							二本勝ち
	M.S	115	引き胴											二本勝ち
	M.S													一本勝ち
	Y.T													引き分け
	Y.T	114	飛び込み面			140	出ばな面							不戦勝
	Y.T	140	引き面											二本勝ち
	Y.T	144	飛び込み面			175	飛び込み面							一本勝ち
	Y.T	17	引き面			53	引き面							二本勝ち
	K.F	104	飛び込み面											二本勝ち
	K.F	7	引き逆胴			185	抜き胴							一本勝ち
K.F	156	引き小手											二本勝ち	
K.F	111	飛び込み面						113	小手打ち落とし面	116	飛び込み面		二本勝ち	
K.F			225	小手抜き面	230	抜き胴							引き分け	
全九州女子学生剣道優勝大会	K.O	203	引き面			206	諸手突き						引き分け	
	K.O	44	飛び込み面			120	飛び込み面						二本勝ち	
	K.O			197	引き面								二本勝ち	
	Y.O	143	飛び込み胴										一本負け	
	Y.O	31	飛び込み面										二本勝ち	
	Y.O	136	出小手			220	諸手突き						二本勝ち	
	Y.O	1	飛び込み胴			61	引き面						二本勝ち	
	M.S			70	引き小手								一本負け	
	M.S	103	飛び込み面										二本勝ち	
	M.S	87	飛び込み面			143	小手返し面						二本勝ち	
	M.S	38	小手						128	出小手	154	引き面	二本勝ち	
	Y.T	34	追い込み面			75	飛び込み面						二本勝ち	
	Y.T	3	相小手面			78	飛び込み面						二本勝ち	
	Y.T	7	引き面			9	飛び込み面						二本勝ち	
Y.T	76	引き面			82	左小手打ち						二本勝ち		
全日本女子学生剣道優勝大会	K.O	65	抜き胴			88	飛び込み面						二本勝ち	
	K.O	31	引き面			104	出小手						二本勝ち	
	K.O			131	飛び込み面	205	抜き胴						引き分け	
	K.O	178	引き胴										一本負け	
	Y.O	17	引き面		178	抜き胴							一本勝ち	
	Y.O	4	抜き胴			65	引き面						二本勝ち	
	Y.O	125	飛び込み面										一本勝ち	
	Y.O	204	引き面										二本勝ち	
	Y.O	68	逆胴			238	引き面						引き分け	
	M.S			152	飛び込み面	195	返し面						二本勝ち	
	M.S	19	引き面			94	引き胴						二本勝ち	
	M.S	158	飛び込み面			227	引き面						一本勝ち	
	M.S	192	反則勝ち			195	飛び込み小手			231	飛び込み面		二本負け	
	M.S			217	飛び込み面								二本勝ち	
	Y.T	20	引き面			113	飛び込み面						二本勝ち	
	Y.T	2	飛び込み面			8	引き面						引き分け	
	Y.T												一本勝ち	
	Y.T	145	飛び込み面						34	飛び込み小手	72	飛び込み面	二本勝ち	
	Y.T	30	飛び込み面						174	飛び込み面	302	引き面	二本勝ち	
	Y.T	119	飛び込み面										二本勝ち	
K.F	140	突き			184	飛び込み面						二本勝ち		
K.F	3	出ばな面						6	相面	68	抜き胴	引き分け		
K.F												二本勝ち		
K.F	211	飛び込み小手			213	相小手面							引き分け	
K.F	123	飛び込み小手						238	引き面				引き分け	

いてはチームとしての勝敗を左右する流れ等があり, 特に副将というポジションは前衛陣が3連勝しないかぎり必ず勝負がかかってくるので, そのために慎重かつ堅実な戦い方が要求される。K.O選手もそのことを特に意識して実際に試合をしてきたようであった。

有効打突の1本目先取率は, チーム平均が71.6%であり, 各個人別にみると先鋒からM.S選手が64.3%, Y.T選手が86.7%, K.F選手が70.0%, K.O選手が50.0%, Y.O選手が78.6%であった。

1本目先取率とその試合の勝率の関係としては, K.F選手以外の選手が1本目先取率よりも勝率の方が高かった。そして, 敗れた試合4試合中(2本負け1試合, 1本負け3試合)で, こちらが1本先に先取して逆転で負けた試合は無く, さらに引き分けた試合(12試合)では, こちらが1本先取して引き分けた試合は1試合, 先に先取された試合は4試合, 両者に有効打突がみられなかった試合が7試合であった。これらのことから, 剣道の勝負においては先を取り, 先に1本取った方がその試合を有利に展開できるということが再確認できた。

検証2. 1本目先取率と先取した時間

チームとしての初太刀1本目を取った平均時間は, 87.7秒(約1分27秒)であった。女子団体戦の試合時間は4分間である。この4分中, 相手を常に攻め1分30秒付近で有効打突を奪うということは, 残りの時間のことや今回のデータで1本先取してからの逆転負けがないことから相手にも与える心理的な圧力は計り知れないほど大きいものであると推測できる。

剣道の有効打突は対人関係の中で漠然と生じるものではない。また剣道には, 「打って勝つな, 勝って打て」の教えがあるように, ただ打つだけでなくそれ以上に打つ前に相手に攻め勝つことが重要であるとされ, 相手を打つためには相手より早く攻める(先を取る)こと, 相手の攻めを上回る勢いの攻め方をすることが有効打突を奪う条件となる。

各選手別では, 最も早い時間帯でとれる選手が

Y.T選手で65.5秒, 最も遅い選手がK.F選手で106.9秒であった。つまり上記のことに照らせば, Y.T選手は最も攻めの早い選手であると考えられる。逆にK.F選手は攻めが遅い(俗に勝負が遅い)選手ともいえるが, その剣風から相手をじっくり攻めて勝機を伺うのが上手な選手であるとの見方が, 試合成績からみて妥当であろう。

剣道は, 無念無想の境地で立合うのが理想である。高野もそこを「真剣の勝負に於いてをや須らく勝たんとするの念を離れ, 負けざらんとするの心を絶ち, 勝ちて喜ばず, 負けて悔やまず, 虚心平気なるべし。仕合に於ては最初の一本が最も大切なり。勝敗の数が最初の一本にて岐る々こと多し。……」⁴⁾と述べている。4分間の勝負であまり早く1本先取してしまうと残りの時間をどうしようというような雑念が入りやすいが, 開始から1分30秒弱ぐらいに有効打突を奪うことによって, 気持ちに余裕を持ち, さらに無心に近い状態で勝負に徹しきることができるのではと考えることができる。

検証3. 有効打突となった技の分類

剣道の技は, 自らがしかけて技を出していく「しかけていく技」と相手の技に対応する「応じていく技」とに大別される。更に, しかけていく内容の技を, 「しかけ技」「引き技」「出ばな技」の3つに分け, 応じていく内容の技を「抜き技」「返し技」「すりあげ技」「打ち落とし技」など現在の応じ技の分類に基づいて分けた。

表6及び図1は今年度対象試合の有効となった打突の分類とその本数を表したものである。有効となった技は, しかけていく技が89本(85.6%) 応じていく技が14本(13.5%) その他禁止行為(反則)によるものが1本(0.9%)であった。

しかけていく技の中でも, 「しかけ技」が55本, 「引き技」が29本, 「出ばな技」が5本であった。しかけ技の中では「(飛び込み)面」が最も多く33本, 引き技の中では「引き面」が20本, 出ばな技の中では「出小手」が3本であった。また, 応じていく技の中では, 「抜き技」が7本, 「返し技」が6本, 「打ち落とし技」が1本であり, 「すりあ

表6. 平成13年度公式団体戦における有効となった打突の分類と本数（総数：104本）

技	分類	1 本 目		2 本 目		3 本 目	
		先取したとき	先取されたとき	先取したとき	先取されたとき	先取したとき	先取されたとき
しかけていく技 89本	しかけ技	25	5	19	4	2	0
	引き技	17	2	7	1	2	0
	出ばな技	2	0	2	1	0	0
応じていく技 14本	抜き技	2	1	3	0	1	0
	返し技	1	1	3	0	1	0
	打ち落とし技	0	0	0	1	0	0
その他	反 則	1	0	0	0	0	0

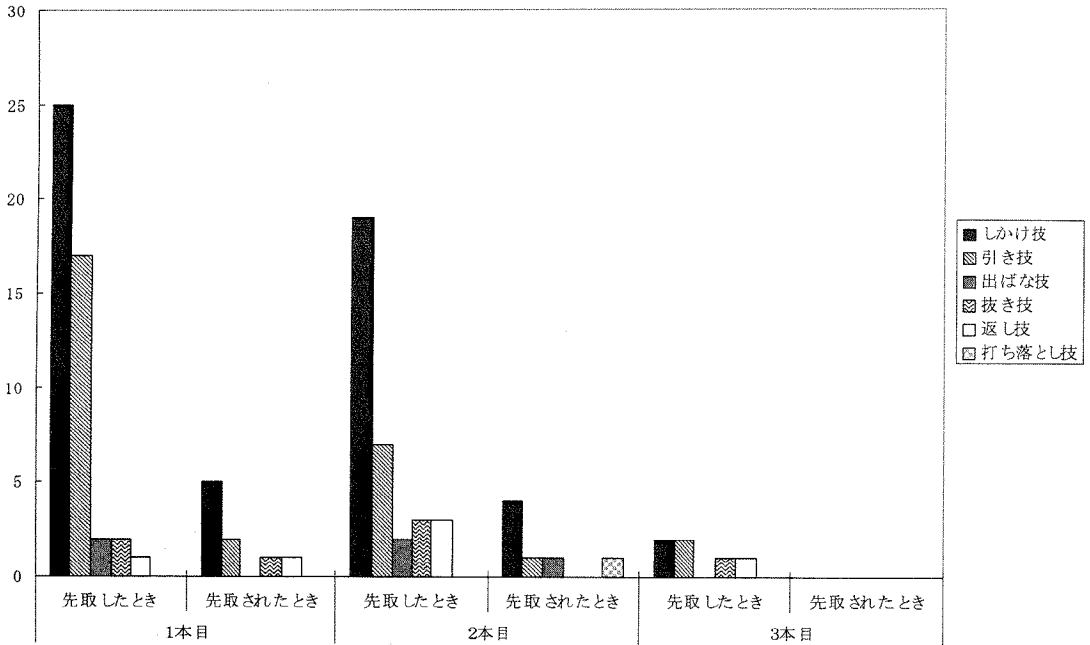


図1. 平成13年度公式団体戦における有効となった打突の分類

げ技」の決まり手はなかった。また、応じ技について決まった部位別にみると「面」が6本、「胴」が8本であった。

試合において、先取した技も先取された技もしかけ技「飛び込み面」が最も多かった。引き技については、有効となった技の27.9%を占めており、引き技の中の約70%が面であった。現在の剣道は、どの対象の試合でもしかけ技主体、特に面技主体になっており、本学女子チームも例外ではない。

こちらが取られた技については、「飛び込み面」6本、「飛び込み小手」2本、「相打ちの面」1本、「引き面」2本、「引き小手」1本、「出小手」1

本、「抜き面」1本、「抜き胴」1本、「小手打ち落とし面」1本の合計16本（15.4%）であった。

剣道では、常に先の気位をもって相手の機先を制し、先々の先の技をもって勝つのが最良とされる。つまり、技としては最もオーソドックスで攻撃力のあるしかけていく面技、特に相手より早く、遠い間合いから打つ面を決め技として持つことと、接近した間合いからの引き技をうまく駆使して、「出てよし、引いてよし」のスタイルを構築することが大事であり、今回はそこを徹底して実践にうつすことができたと思う。

これからの課題 (結びにかえて……)

今回, 初めて1年間の活動の一部, 公式試合の記録を用いて本学女子選手の試合特性を公開した。今回対象選手の4年生2名は2連覇時(平成10年)から, 3年生3名は3連覇時(平成11年)からのメンバーだったわけだが, 実際に年々重なり大きくなっていく連覇のプレッシャーに耐えて, 跳ね返し, 達成した選手達の精神力にまずは敬意を表したい。

さて, これからも常に精進していかねばならないが, 本研究を振り返って, 先の気位を練り, 高めながら, 攻撃技主体のスタイルを変えずに, 日々の指導の中で本人達に長所短所を自覚させながら, 個々の得意技(先々の先の技)を磨いていかねばならないと感じた。今回, 公式戦はほぼ固定の不動のオーダーでのぞんだが, 4年生2人が卒業する14年度は, 戦術的にも練り直さなければならない面が多々あると考える。誰がどのポジションでもこなせるぐらいまでに仕上げるのが理想的である。

試験的な試みとして, 全日本女子学生5連覇を達成した本学女子チーム及び選手の試合特性の一部を振り返ったが, 剣道における指導法のすべてをここに網羅, 公開できるものではない。あくまで剣道の試合の位置づけは, 毎日の稽古・修練による心身鍛練向上の成果を発表する場として取り扱っており, その稽古の中身は, 基本, 形の繰り返しによる修行である。この稽古修行によって得られるものは個々の体得による「行」であり, 世阿弥のいう, 「我が家の秘事とて, 人に知らせぬをもて, 生涯の主になる花とす。秘すれば花, 秘せねば花なるべからず。」²⁾ である。

文献等

- 1) 剣道時代, 体育とスポーツ出版社, PP82-83, 2001,1
- 2) 世阿弥, 風姿花伝, 岩波書店, P105, 1991
- 3) 高野佐三郎, 剣道(復刻新版), 鳥津書房, P161,
- 4) 同上, P101